

建築文化賞作品

(千葉県受賞)と

幕張新都心を見学する



文・写真

橋本 修一



令和4年11月10日に行われた事業委員会の企画による見学会に参加した時の報告です。それでは、見学したコース順に作品を紹介していきたいと思います。

1. 株式会社ZOZO 本社屋

最初に見学する建築物は、株式会社ZOZO 本社屋です。南面に大きく開放された空間は、道路を行き交う地域の鼓動を感じながら仕事を行うという、会社の考え方を覚えることが出来ると思えました。まず外観は、スパン30mの半剛性吊り構造の屋根が目を惹きます。それによって布で包み込まれたような天井が生まれ、さらにスキップフロアの大執務空間を生み出しています。そして、外壁や軒先には、木製格子を組み込んだ意匠デザインが、無機質になりがちな外観に、しっとりとした雰囲気を作り出しました。また内部の大執務空間は、テーマごとに空間と作業スペースが与えられていて、オープンな空間でありながら、大会議室から小会議室そして個別作業までこなせる配置になっています。さらにスキップフロアの段差を利用して、軽い軽食を取りながらの打ち合わせや雑談などが出来る空間もうまく組み込まれています。

また、それらとは別に小空間の会議室や地下の作業空間なども機能的に優れています。それら全てが、ユニークかつ魅力的で社会にインパクトのある革新や刷新そして変革をもたらす株式会社ZOZOの経営姿勢が感じられるオフィス建築となったと感じました。



2. 高円宮記念JFA夢フィールドクラブハウス



日本サッカー協会のクラブハウスです。まさにサムライの刀またはなでしこの薙刀を連想させるクラブハウスの正面外観です。玄関アプローチの大庇は、天に続く様な曲線を描き、青空に伸びていくようであり、刀や薙刀を思わせる切っ先は、鋭く蹴りそして放たれたサッカーボールの軌跡を思わせます。その大庇を潜(くぐ)りエントランスホールに入ると、正面に開放された大開口部が広がり、メインピッチに流れるように視線が移ります。また壁や天井の細かい木材の配置が、その視線の誘導を助けています。そこには計算されたディテールや施工の技術力が感じられます。内部空間においては、大会議室や小会議室が用意され、選手達の作戦面の確認などもすぐさま行えます。さらにロッカールームや室内トレーニングルームも完備されています。外部空間は、メインピッチやサブを含めると4面あり、日本代表が集中してトレーニングすることが出来、また、一般の人が、自由に公園を利用できる空間でもあるため、効率的な配置が、考えられています。このことにより、代表選手はもとより、サポーター、スタッフ関係者、そして地域住民が、サッカーファミリーとしてつながりまとまる施設を目指していることを感じました。